

かわまちづくり計画のハード・ソフト施策についての報告

＜ソフト施策について＞ ～四万十川かわまちづくりに関するアンケート結果～



①推進WGメンバーアンケート結果

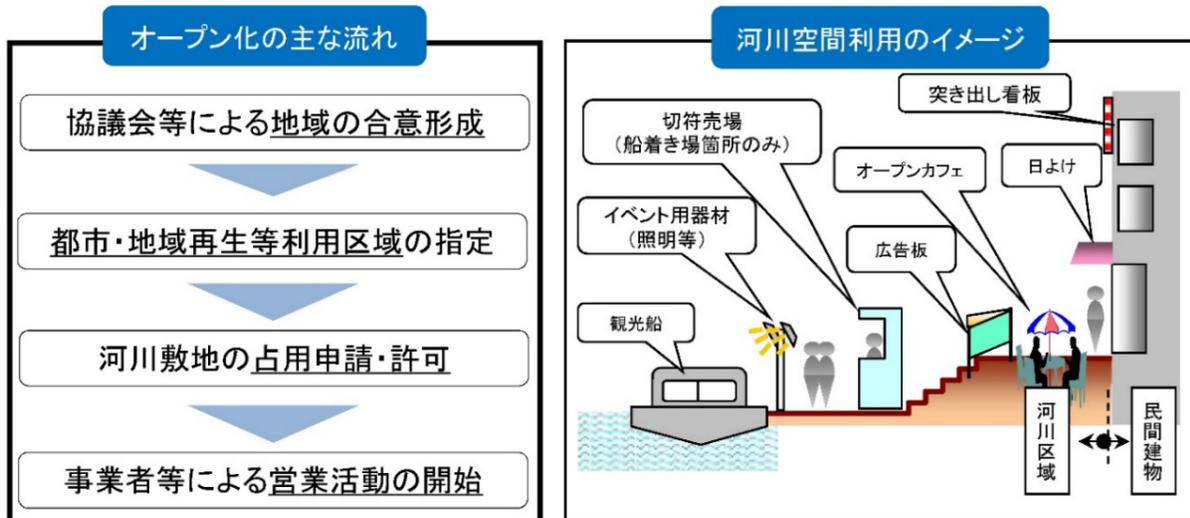
推進WG メンバー アンケート	内容	<ul style="list-style-type: none"> ■親水護岸（管理用通路含む）の整備方法について⇒資料2-1で報告済み ■計画箇所のオープン化に係る意向について
	対象	推進WG委員のうち第4回推進WGの参加者（座長を除く）
	実施期間	令和7年9月26日～10月3日（8日まで受付）
	実施方法	発送：調査票を事務局から各委員にメール送信 回収：下記のいずれかで回収 <ul style="list-style-type: none"> ・各委員からのメール返信 ・印刷物のFAX送信 ・印刷物の窓口での直接回収
	回答者数	17名

【この質問をした背景】

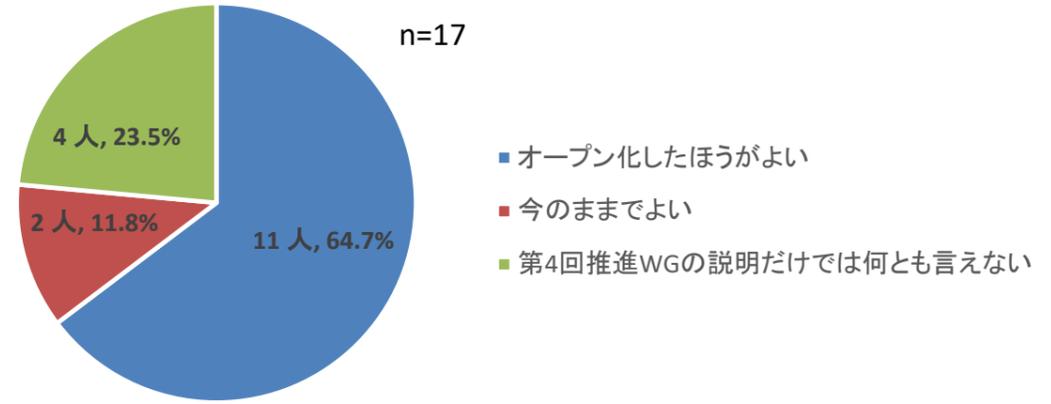
- 第4回推進WGでは、四万十川かわまちづくり計画のソフト施策の推進にあたっては、都市・地域再生等利用区域の指定が必要であること（「河川空間のオープン化」）について、他地域の事例も交えて説明しました。

説明の概略

- ・河川敷地の占有は、原則として公的主体（地方公共団体等）に限られ、河川敷地では営業活動を行うことはできません。しかし、「河川空間を積極的に活用したい」という要望の高まりを受け、平成23年に河川敷地占有許可準則が改正され、一定の要件を満たす場合には、特例として民間事業者等も営業活動を行うことができるようになりました。これを「河川空間のオープン化」といいます。
- ・オープン化後は、地元自治体だけでなく、公民連携の協議会や民間（企業や財団法人、社団法人、NPO法人等）など、さまざまな主体が河川敷地を占有することが可能になります。
- ・但し、オープン化する場合には、「地域の合意形成」と「都市・地域再生等区域の指定」が必要です。
- ・地元自治体が占有している場合も含め、多くの事例において、「つなぎ役」としての地域団体が存在（多くが「地域の合意形成」主体を兼ねる）し、出店者の公募・選定、調整や運営等を担っています。

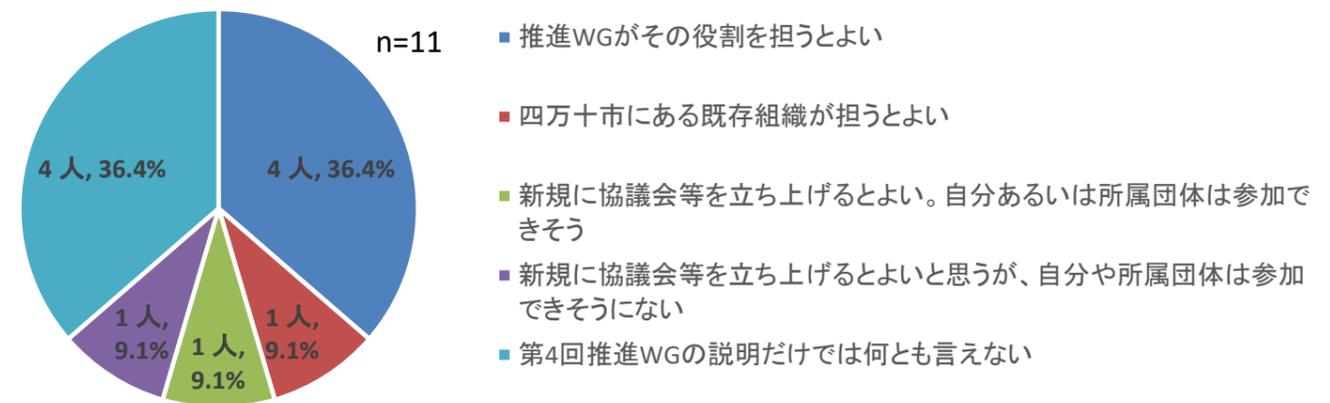


Q1. オープン化への意向について



- ・オープン化したほうがよいと考える人が多かった。

Q2. オープン化に必要な「地域の合意形成」はどのような主体が担うとよいか（オープン化に賛成した11人対象）



- ・推進WGとする意見と、何とも言えないとする意見が拮抗した。
- ・オープン化については今後も議論が必要である。

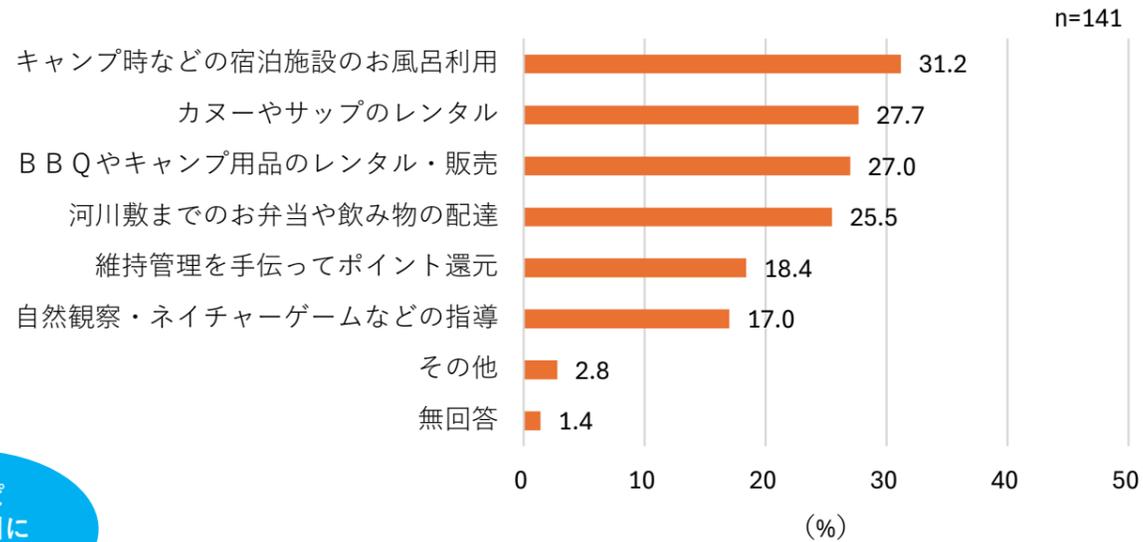
②イベント（たのしまんとリバーフェスティバル2025）来場者アンケート結果

イベント 来場者 アンケート	内容	■トイレの整備方法について⇒資料2-1で報告済み ■整備箇所の利活用について
	対象	推進WGのメンバーが出店する「たのしまんとリバーフェスティバル2025」（主催：中村商工会議所青年部）の来場者
	実施日時	令和7年11月2日10:00～16:00
	実施方法	会場での推進WGメンバーによる聞き取り
	回答者数	141名 (四万十市83.0%、高知県内13.5%、県外2.8%、無回答0.7%)



アンケート実施状況

Q2. 会場付近であったらよいと思うサービス（2つまで回答可）

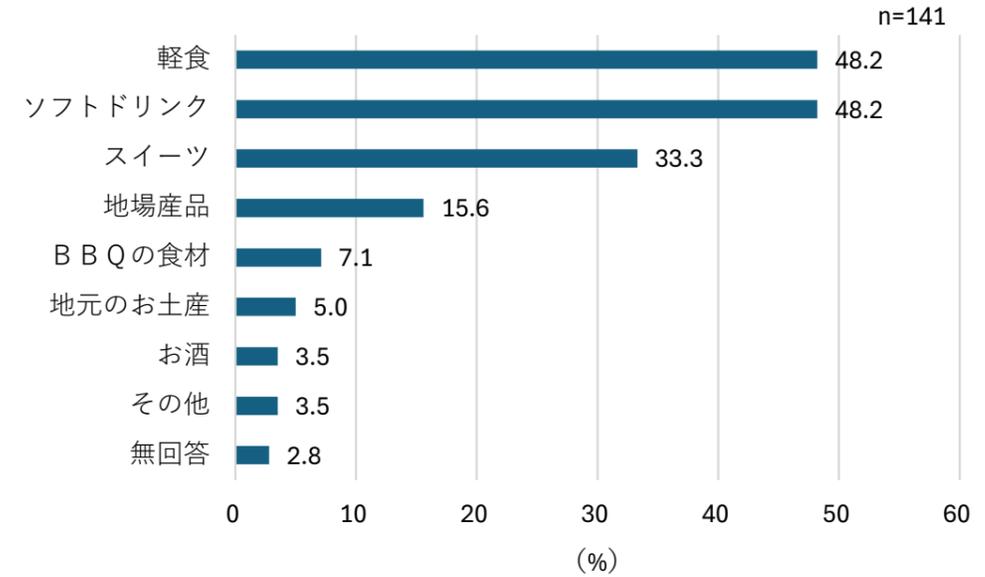


やっぱ
四万十川に
入りたい！

入り江が整備される
なら、カヌーやサッ
プをやってみよう

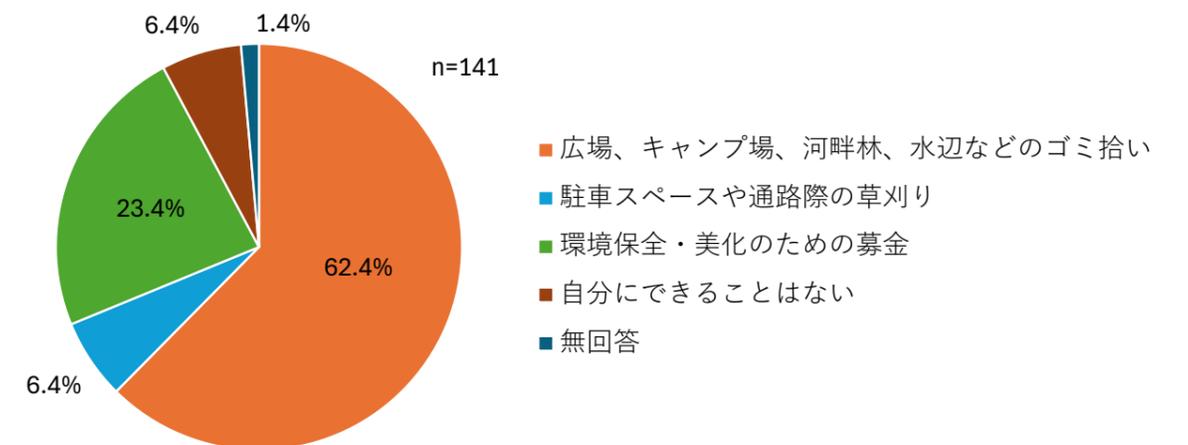
- 「キャンプで泊まる人や広場を利用した人が、ホテルや民宿のお風呂で汗を流せる」を選択した人が多かった。
- 「カヌーやサップのレンタル」、「BBQやキャンプ用品のレンタル・販売（コンロ、机・イス、炭など）」、「河川敷までのお弁当や飲み物の配達」と続いた。

Q1. 会場付近で平常時に売っていたらよいと思うもの（2つまで回答可）



- 1位：軽食（ハンバーガーやサンドイッチ、焼きそば、おにぎりなど）
ソフトドリンク（ミネラルウォーターやジュース、お茶など）
- 3位：スイーツ（アイスクリーム、ドーナツ、クレープなど）

Q3. 維持管理へ参画意識について



- ・ゴミ拾い、草刈りなどの維持管理に参画できると答えた人は約7割にのぼった。
- ・「環境保全・美化のための募金」と答えた人を加えると、約9割が何らかの形で維持管理への協力の意思を示した。